

6/22
(水)

釣って刺して焼いていただきます

ヤマメ養殖・釣り堀施設「青龍の郷」



上志佐小学校の3～6年生32人が県内体験型旅行利用促進事業を利用し、ヤマメ釣りを体験しました。

市とまつうら党交流公社が普段経験できない農業、漁業の「ほんなもん」の体験を楽しんでほしいと実施。

同事業の利用料を上志佐地区青少年育成会議、上志佐起興会が支援し開催されました。

金子庄一郎同社理事長は「魚の命を頂いています。(命にありがとうという)感謝の気持ちを先生や家族、お友達に伝えてください」と最後に子どもたちへ話してくれました。

6/18
(土)

うるうる福島がオープン



福島町内の野菜などを販売する、「うるうる福島」が旧Aコープふくしま店横にオープンしました。

うるうる福島は、耕作放棄地の解消や農家の所得増大などを目的に、会員約30人で設立。当面は毎週土曜日の午前中だけの営業を計画しています。

松本トシコ代表は「多くの人が福島を訪れるきっかけになるような施設にしていきたい」と抱負を述べました。

6/28
(火)

地元の漁業に触れて

福島養源小学校 4年生



新松浦漁業協同組合(渡邊勝美組合長)福島くるまえび養殖場と県は、同学校の4年生19人を対象に、水産教室を開きました。この取り組みは、地元の水産業に興味を持ち、理解を深めてもらおうと毎年実施されています。

児童はクルマエビの養殖場や設備を見学しながら、生態や育て方について説明を受け、最後に養殖池へ稚エビ約400尾を放流しました。児童は、約半年で20センチ程度になる成長の速さや、お世話の大変さにとても驚いていました。

6/20
～23

園児さんたちへ花の苗をお届け

九州電力(株)松浦発電所、JPGS(株)松浦火力運営事業所



発電所近隣の保育施設11箇所に、園児計617人分の花苗が届けられました。

この取り組みは、6月の環境月間の一環として、心身の成長と健康、環境への意識を高めてもらおうと2社合同で行われているものです。

23日には、曙保育園(吉永豊子園長)の園児19人に花苗が届けられ、園児を代表して年長組の3人が「綺麗なお花をありがとうございます。お水をあげて大切に育てます」とお礼の言葉を伝えました。

7/1
(金)

社会を明るくする運動

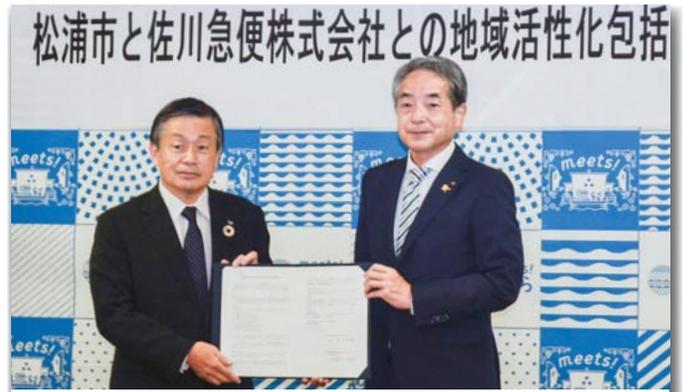


犯罪や非行の防止と罪を犯した人たちの更生に理解を深め、明るい社会を築こうとする運動で、毎月7月を同運動の強化月間として全国展開されます。当日は、総理大臣からのメッセージ伝達式が行われ、関係する13団体の参加者らでメッセージを共有しました。その後、平戸・松浦地区保護司会松浦分区（福田友一分区長）5人が志佐町内商業施設前で買い物客へ啓発用パンフレットを配布し、運動の趣旨を周知しました。

6/28
(火)

佐川急便株式会社と連携

地域活性化包括連携協定



▲九州支店 福元俊朗支店長（左）

市は同社と県内初となる連携協定を締結しました。

同社は物流事業などを通して地域経済の活性化や持続可能な社会の実現へ官民一体で取り組む「SAGAWA タウンサポート」を展開。地域防災、高齢者・障がい者支援、観光振興など8つの協定項目を柱に、同社の持つ全国各地とのネットワークや経営資源と連携して課題解決に取り組んでいきます。

まちの話題

7/1
(金)

柚木川内キャンプ場開き



松浦市民休養施設柚木川内キャンプ場の安全祈願祭とキャンプ場開きが行われました。

当日は地区住民、警察、消防など関係者約30人が集まり、10月15日までのシーズンの安全祈願を行いました。

柚木川内自治会の大畑康夫会長は「施設が開設されて3つの時代（昭和・平成・令和）が経過しました。川のせせらぎを聞きながら涼むことができるこの場所をこれからも利用してもらいたい」と挨拶されました。



また、6月19日には、柚木川内地区関係者や松浦ロータリークラブ会員（15人）ら約30人が参加し除草作業、バンガロー内の清掃活動を行いました。

参加したロータリークラブ会員は「同会の恒例行事になっています。キャンプ場利用者に気持ちよく使用していただきたいし、利用者が増えたらいいと思います」と話していました。